第22回

みんなの尼活皆議

# 市内高校生や読み聞かせボランティア団体など 図書館利用者のみなさまと

## ～みんなで考える、これからの図書館～



令和８年４月19日、日頃から図書館を利用していただいている皆さまと「どんな図書館なら行きたくなるか」、「今の図書館に足りないと感じること」などについて話し合いました。皆さんからは居心地の良い読書環境の実現や読書ができる拠点の増加など様々なご意見をいただきました。

## 居心地の良い読書環境

**【参加者からのご意見①】**
現在の中央図書館は老朽化もあって理想の図書館とは言い難い。図書を借りて返すことに留まるのではなく、緑に囲まれて本を読めるようなテラスを設置するなど居心地の良い読書環境があればと思う。

**【これからの対応について】**
中央図書館については施設の老朽化が進んでおり、トイレをはじめ館内環境の改善が必要であると認識しています。
そうしたこともあり現在、施設の長寿命化に加え、リニューアルも併せて実施していく予定としており、いただいたご意見も参考にしながら多くの方に親しまれる居心地の良い読書環境の実現に向けて取り組んでいきます。
また、北図書館については令和12年度中に大井戸公園内に移転・リニューアルを予定しており、市域全体で読者環境の改善を進めていきます。

## 読書ができる拠点の増加

**【参加者からのご意見②】**
読書ができる拠点を増やすことができないか。

**【これからの対応について】**
市内には中央図書館及び北図書館に加え、各地域の生涯学習プラザやユース交流センター内に配本所図書室を設置しています。これらの図書機能についてより多くの方に利用していただけるよう周知に努めるとともに、読書に親しめる拠点の充実についても検討を進めていきます。



## 学校図書室の市民向け開放

**【参加者からのご意見③】**
学校の図書室を市民向けに開放するなど有効活用できないか。

**【これからの対応について】**
図書拠点が限られる中、学校図書室の市民向け開放については市内の読書環境を充実させるための有効な手段であると考えています。
ただし、市民利用と図書室を活用した学校での授業を両立させるためには、利用ルールの明確化や管理体制の構築など様々な課題への対策が必要となります。
そのため、学校施設の建替え等に合わせて地域開放を導入するなど、教育資源の有効活用について検討を進めていきます。



## 貸出期間の長期化等運用の改善

**【参加者からのご意見④】**
読み聞かせボランティア団体の活動では、比較的多くの本を長期間継続して借りられると便利であるため、貸出しに係る運用の改善について検討をお願いしたい。

**【これからの対応について】**
図書の貸出冊数や貸出期間については、これまでも他自治体の状況等を参考にしながら、利用しやすい制度となるよう見直しを行ってきました。（貸出冊数：15冊まで、貸出期間：2週間以内（R8現在））
一方で、貸出冊数上限の緩和や期間を長期化した場合、予約図書として他の方にお待ちいただく期間が長くなることも考えられるため、利用者全体の利便性とのバランスも重要となりますが、いただいたご意見も踏まえ、現在の運用にとらわれることなく、必要に応じてより良い運用となるよう検討していきます。

## AIを活用した選書サービス

**【参加者からのご意見⑤】**
若者の間で流行っている性格診断（MBTI診断）ができる機能を図書館内に備えておき、その診断結果別にお勧めの本が提示されるようにするなど仕掛けがあればおもしろい。

**【これからの対応について】**
若年層の図書館利用率の低下が課題となる中、図書館をより身近に感じ、興味を持ってもらえるような取組が必要であると認識しています。現在、中央・北図書館のほか、配本所のある生涯学習プラザにおいては、児童・生徒向けの読み聞かせボランティアとの協働や、ヤングアダルトコーナーの充実を図っておりますが、それと並行してAIを活用した選書サービスなど、利用者の好みや関心に応じた書籍を図書館側から提案する取組についても検討していきたいと思います。

## SNSを活用した魅力発信

**【参加者からのご意見⑥】**
ＳＮＳをうまく利用しながら読書や図書館の魅力を発信してはどうか。

**【これからの対応について】**
現在も、InstagramやX等を活用し、行事の案内や展示の紹介、おすすめの本の掲載などの情報発信を行っております。今後も、より多くの方に図書館や読書の魅力を知ってもらえるよう、内容の充実に努めていきます。

みんなの尼活皆議



（※）参加者の皆さまのご意見や取組中（または取組予定）の事業等は、代表して一部のみを掲載しています。
この他にいただいたご意見等は、尼崎市公式ホームページに掲載の車座集会の対話録をご覧ください。